

1 事業名 **さんべミニ冬まつり**

2 必要性

「今後の青少年の体験活動の推進について」（中央教育審議会答申・平成 25 年 1 月 21 日）によると、「人間関係能力の低下」、「異なる他者と協同する能力の必要性」、「遊びや体験の場の『本物』を見る機会の減少」などが青少年の問題として取り上げられている。また、「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」（国立青少年教育振興機構・平成 22 年 10 月 14 日）によると、「小学校低学年までは友だちや動物植物とのかかわり、小学校高学年から中学生までは地域や家族とのかかわりが大切」などの調査結果が出ている。



これらを踏まえ、当施設では国立の青少年教育施設として、青少年育成に携わる団体や人材と連携し、青少年の健やかな成長にとって、様々な体験活動を実施することが、いかに重要であるかを広く社会や家庭に広めていかなければならないと考える。さらに、そのきっかけづくりとなるような体験活動の機会を提供することも今後より一層求められる。

3 趣 旨

当施設の活動プログラムを提供することを通して、体験活動の楽しさを啓発し、今後の施設利用の促進や体験活動実施の普及を図る。また、家族の絆を深めることや基本的な生活習慣を確立するきっかけづくりを行う。併せて当施設の法人ボランティアが事業の企画・運営を通してリーダーシップを身につけ、リーダーとして必要な資質の向上を図ることをねらいとする。

4 期 日

平成 27 年 2 月 21 日（土）～2 月 22 日（日）（1 泊 2 日）

※法人ボランティアは前日の 20 日（金）から準備のため入所

5 参加者

(1) 募集対象・人数 幼児、小学生とその保護者 150 名

(2) 参加人数 171 名 49 家族

(3) 参加者分析 毎年人気の事業であり、定員 150 名の募集に対して、52 家族 192 名の申し込みがあった。

参加者の居住地の内訳は、下表のとおりである。本事業への参加のきっかけは、「チラシを見て」という回答が 22 家族あり、最も多かった。また、参加家族 49 家族のうち 20 家族が新規の利用であった。

地域	家族数
松江市	18
雲南市	6
出雲市	17
大田市	2
広島県	6
計	49

参加者居住地内訳

新規・継続	家族数
新規	20
継続	29
計	49

参加者施設利用実績

6 講師（研修指導員）

歩くスキー（4名）・・・鈴木英晃 宮脇 進 恒松俊明 狩野祥文
自然観察（2名）・・・坂本弘治 柳楽天児

7 参加経費

大人 2,500 円 小学生 2,450 円 幼児 1,820 円 3歳以下 100 円

※選択プログラムで三瓶自然館サヒメルでの天体観察会に参加する家族は別途料金（大人 240 円・小人 80 円）が必要となる。

8 事業の内容

(1) 事業の特色

本事業は、冬季における当施設の一大イベントとして位置づけている。家族を対象に冬の三瓶を満喫できるよう、3つ以上のプログラムを設定している。プログラムは選択制とし、その家族構成や子どもの年齢等の発達段階に応じた体験を提供できるようになっている。また、本事業では当施設の法人ボランティアが一部のプログラムを企画・運営するという特色がある。初日の夜の選択活動及び2日目の午前中の活動について、法人ボランティアが中心となり家族同士の絆を深めるために参加者にプログラムを提供する。

(2) プログラムデザインと企画のポイント

プログラムは、①冬の三瓶を満喫できるプログラム、②家族の絆を深めることのできるプログラム③家族同士の交流ができるプログラムの3つをテーマとして構成した。また参加者自らが自分の実施したい活動を選択し、意欲的に活動に取り組めるようにした。

①冬の三瓶を満喫できるプログラム、②家族の絆を深めることのできるプログラムとして、「歩くスキー」、「スノーシューハイキング（自然観察）」、「そり遊び」の3つを設定した。「歩くスキー」、「スノーシューハイキング（自然観察）」については、研修指導員に指導を依頼し、より本格的な体験を提供できるようにした。さらに、家族の絆を深めることをねらいとしたプログラムであるので、家族と一緒に活動できる内容とした。

また、③家族同士の交流ができるプログラムとして、法人ボランティアが企画・運営するプログラムを設定し、意図的に家族と家族の交流が図れるようなレクリエーションやゲームを行った。本事業の特色ともいえる法人ボランティアによるプログラム提供については、島根大学及び島根県立大学の学生が、事前に当施設で打合せをする機会を設け、3つのテーマをもとに参加者に楽しんでもらえる内容を企画した。本施設での内容検討の他に、島根大学でもボランティア同士の話し合いの機会を設け、当日の運営に備えた。

(3) 広報のポイント

広報については本事業のチラシを作成し、近隣小学校（松江市・出雲市・三次市・雲南市・大田市）に教育委員会を通じて28,300部配布した。また、報道機関には記者クラブを通じてチラシを配布し、広報を依頼した。さらに、平成25年度本事業に参加した家族に対してもチラシを配布し、参加を呼びかけた。

(4) 日程表

	11:00	12:00	13:00	16:00	19:00	21:00	22:00
2/22 (土)	受付 オリエン テーション	昼食	選択活動① A.白銀の世界へ 歩くスキーで出かけよう B.動物の足跡みつかるかな？ スノーシューハイキング C.思いっきりそり遊び	つどい 夕食 入浴	選択活動② A.さんボラ お楽しみ企画① B.冬の星空観察 C.絵本の読み聞かせ D.自主活動	自由	就寝

	6:30	9:30	12:00	13:30
2/23 (日)	起床 つどい 清掃 朝食	さんボラお楽しみ企画②	昼食	退所

(5) 内容

・**選択活動① A「白銀の世界へ歩くスキーで出かけよう」**

参加者の年齢やその日の体調、経験の有無などによって、当日にグループをつくり、活動した。装備の選択や装着方法を当施設職員が指導した後、グループ毎に活動をした。各グループに1名の講師及び3名の法人ボランティアを配置した。人数把握のため、すべての参加者にゼッケンを着用させ、安全に活動できるようにした。



・**選択活動① B「動物の足跡みつかるかな？スノーシューハイキング」**

全体でスノーシュー選びや装着方法を当施設職員より指導した後、2コースに分かれて活動をした。各グループ、講師から動物の足跡や糞の説明や植物の不思議などを聞きながら、冬の自然をゆっくり味わった。途中、雪の斜面を滑って遊んだり、野ネズミのえさ場を見つけたりしながら楽しんだ。



・選択活動① C「そりでコースを駆け抜けよう」

交流の家で積雪時に常設している3コースに分かれてローテーションしながら活動をした。注意事項等を当施設職員が指導した後、プラスチックそりで思い思いにそり滑りを楽しんだ。1コースに3～4名の法人ボランティアを配置して、安全管理に努めた。



・選択活動② A「さんボラお楽しみ企画①」

法人ボランティアが企画運営を行った。「家族同士の交流が図れるプログラム」をテーマに、グループでの活動を中心に行った。仲間集めゲームから始まり、命令ゲーム、○×クイズ、ジェスチャーゲーム、人間知恵の輪ゲームを行い、ダンスで最後を締めくくり、退場の際にはハイタッチで家族を笑顔で見送った。



・選択活動② B「冬の星空観察」

当施設から徒歩5分のところに立地する三瓶自然館サヒメルの天体観察会に参加した。あいにくの雨のためプラネタリウムとなったが、天文の学芸員からいろいろな星の話聞いた。併せて行き帰りの真っ暗な道を懐中電灯を持って歩くナイトハイクも行った。

・選択活動② C「絵本の読み聞かせ」

当施設職員と法人ボランティアで読み聞かせを行った。大型絵本や音楽を取り入れて楽しく活動を行った。また、「よふかしおにとはやねちゃん」の紙芝居を行い、参加者へ「早寝早起き朝ごはん運動」の啓発を行った。



・「さんボラお楽しみ企画②」

参加者全員を対象に法人ボランティアが企画運営を行った。家族間の絆が深まることをねらいとし、屋外での雪を利用した活動プログラムを予定していたが、天候が悪く、やむなく屋内の3会場で実施した。時間で種目（障害物リレー、キンボール、スポーツ雪合戦）を入れ替えるなどの工夫を行い、家族間はもちろん参加者と法人ボランティアとの交流も深まり大いに盛り上がった。最後は1会場に集まり、感想発表や集合写真を撮るなどしてフィナーレを飾った。



(6) 運営のポイント

- 当事業は、34名の法人ボランティアと高校生ボランティア2名が活動の支援をする事業であるため、ボランティアの名前と顔を掲載した掲示物を作成し、ボランティアと参加者の交流が図れるよう工夫した。
- 参加者数が171名（49家族）と多く、その内新規利用の家族も20家族と多かったため受付や移動、集合に時間を要したり、混乱したりすることが予想された。そのため、次のような工夫を行った。
 - ・活動時間を多く確保するために、開会式やオリエンテーションを午前中にして午後からはすぐに活動ができるようにプログラムを構成した。
 - ・参加者全員の集合は必要最低限にし、夕べのつどい後や朝のつどい後を有効に活用しアナウンスしたり、日程表を紙で大きく掲示したりした。
- 初日午後の選択活動では36名のボランティアに指導補助を依頼し、参加者の安全管理に努めた。また、夜の活動と2日目の企画・運営は、「家族同士の交流ができるプログラム」を全体のテーマとし、それに沿ったプログラムを構成した。職員からのアドバイスも所々で行ったが、ほぼすべての企画・運営を委ねることで彼らにとって学びの場となるように配慮した。
- 法人ボランティアを、前日から準備のため入所させ、一人ひとりが明確なねらいを持って参加できるようにした。また、事業終了後はふりかえりを行い、自らの行動を見直したり、今後の活動の意欲につなげたりすることを意識した。
- 法人ボランティアには、当施設での活動が初めての学生もいた。そこで、前日の準備では、1日目の担当の活動について、参加者に不安を与えないよう当施設職員が活動の仕方、安全管理について指導した。

(7) 安全管理のポイント

- 屋外で実施する活動については、前日にコースの確認と整備を行った。
- 屋外での活動については、緊急時の連絡体制を整え、無線で細かな連絡を入れるよう努めた。
- 選択プログラム「冬の星空観察」で三瓶自然館サヒメルに移動する際に、当施設職員が誘導を行った。
- 夕べのつどい・朝のつどいで、参加者全員に健康チェックを行い、参加者の体調の把握を行った。

(8) アンケートの満足度・主な記述

事業全体の満足度（参加者 49 家族中）

満足 45 家族（92%） やや満足 4 家族（8%）

初めて歩くスキーをしました。子どももすごく楽しかったようで、またやりたいと言っています。たくさんの運営スタッフのみなさんのおかげでよい体験ができました。ありがとうございました。
集団で規律を守りながらいろいろな体験ができるプログラムで、子どもにとっても、よいと思います。
子ども達にそりやスキーなどの雪遊びをさせたいと思っていたときにチラシがきて参加を決めました。初めてで、正直不安もありましたが、とても楽しく家族全員大満足でした。
毎回この事業で子どもの成長を実感します。時間を見ながら過ごす、あいさつをする、自分のことは自分でする。しっかり自分で実践していました。そして、家族でゆったりと時間を過ごすことができるこのイベントが家族みんな大好きです。
子どもたちが思いっきり雪の中で遊べてよかったです。スノーシューハイキングは、親も初めての経験だったので、講師の先生にいろいろ説明を受けながら歩くのはとても貴重な時間となりました。
雪に触れる機会があまりなく、多くの雪で遊んで楽しかった。他のスキー場等でも遊べると思うが、どのように遊べばよいか分からない自分たちにとって、小さい子にも楽しめる内容でよかった。
さんボラさん達の企画はもちろん、子どもたちにも気さくに話しかけていただき、有意義な2日間でした。
さんボラさんの事前準備はさぞかし大変だったのではないかと思います。しかし、皆さんが頑張ってくださいのおかげでとても楽しい時間を過ごすことができました。

9 成果と今後の課題

<成果>

- 標準生活時間を守ってもらうために、オリエンテーションやつどいで活動時間を伝えたことで、参加者は時間を意識して行動し、すべてのプログラムを滞りなく進めることができた。また、規則正しい生活や、他人に迷惑をかけないように早めの行動をすることを意識させることにつながった。
- 法人ボランティアが企画・運営するプログラムについては、企画の話し合いの段階から担当職員が関わり、安全管理、進行について確認しておくことで、当日スムーズに活動を進めることができた。
- 36名のボランティアが事業に参加したことで、手厚い支援が可能となった。また、プログラムの一部を企画から運営まですべて任せることで、ボランティアにとっても大きな学びの場となった。昨年度同様に、1回生の参加が多く、次年度の当施設におけるボランティア活動に向けても期待できる活躍であった。
- 法人ボランティアは、参加者の中に自然にとけこみ、参加者同士をつなげる役割を担い、家族同士の交流も促進できた。

<課題>

- 本事業は8年目の継続事業である。1泊2日のプログラムが例年踏襲されており、パターン化している。より教育的な効果を上げるために平成27年度は再度プログラムを検討したい。
- 本事業は、法人ボランティアが担う部分が大半であるが、準備期間が大学の学期末試験と重なることもあり、十分な打合せの時間を確保することが難しい。また、今年度は、雪不足により、メインプログラムである2日目の雪上プログラムが実施できず、室内での活動となった。それらを踏まえ、本事業の開催時期を早めることや、ほぼ1か月前からの企画立案開始時期を早めることなどの検討が必要である。

10 普及計画・普及実績

島根県内の報道機関に広報した結果、ケーブルテレビ1社が事業の募集を報道し、参加者の利用や事業内容の周知につながった。またホームページ上に要項や事業の様子などを掲載することで事業内容を社会に広く発信することができた。